

第2回 虎ノ門フォーラム

主 催： 特定非営利活動法人ユーラシア21研究所
日 時： 平成19年6月27日(水) 18:00～19:30
場 所： 海洋船舶ビル10階ホール

プログラム

1. 開 会

2. 講 演

「ロシアのエネルギー —現状と今後—」

講 師： 十市 勉 (TOICHI, Tsutomu)
(財)日本エネルギー経済研究所専務理事

3. 質疑応答

4. 閉 会

配布資料

- ・ロシアのエネルギー —現状と今後— (レジュメ)

これからの虎ノ門フォーラムのご案内

7月24日(火)18:00～「最近のロシアの軍事情勢」

講 師：岡本 智博

(元統幕事務局長、元駐露武官)

コメンター：小川 和久

(株)危機管理総合研究所代表取締役研究所長、軍事アナリスト)

資源大国ロシアと日本のエネルギー政策

エネ研 十市 勉

1. エネルギー資源の超大国

原油高で復活するロシア経済—北のサウジアラビア

石油、天然ガスの価格高騰で好調な経済成長（過去4年平均7%）
急増するオイルマネー - 外貨準備高は中国、日本に次ぎ世界第3位

プーチン政権のエネルギー戦略

資源の国家管理を強化し、強いロシア復活の武器に
クレムリン直結の国営企業 - ロスネフチ、ガスピロム、アトムプロム
原子力産業の再編—国内外での原発建設を含め、核燃料サイクル全般

懸念される要因

経済改革の遅れ - 強まる経済への国家介入、投資環境の悪化など
ピークに近づく西シベリアの原油、天然ガス生産

2. 活発化するエネルギー資源外交

EUに対する政治的、経済的な影響力の強化
ウクライナ、ベラルーシ等への天然ガス、石油の供給削減

対アジア資源戦略—アジアへの影響力拡大、極東ロシアの開発
中国との戦略的関係の強化—具体化する石油、天然ガスの輸出計画

3. エネルギーと日露関係

日本の「新・国家エネルギー戦略」

省エネ - 国全体のエネ効率を30%改善
石油依存度の低減—現状の50%から40%以下に
資源確保 - 権益原油を15%から40%へ

原子力 - 発電比率を30~40%以上に、核燃料サイクルの確立

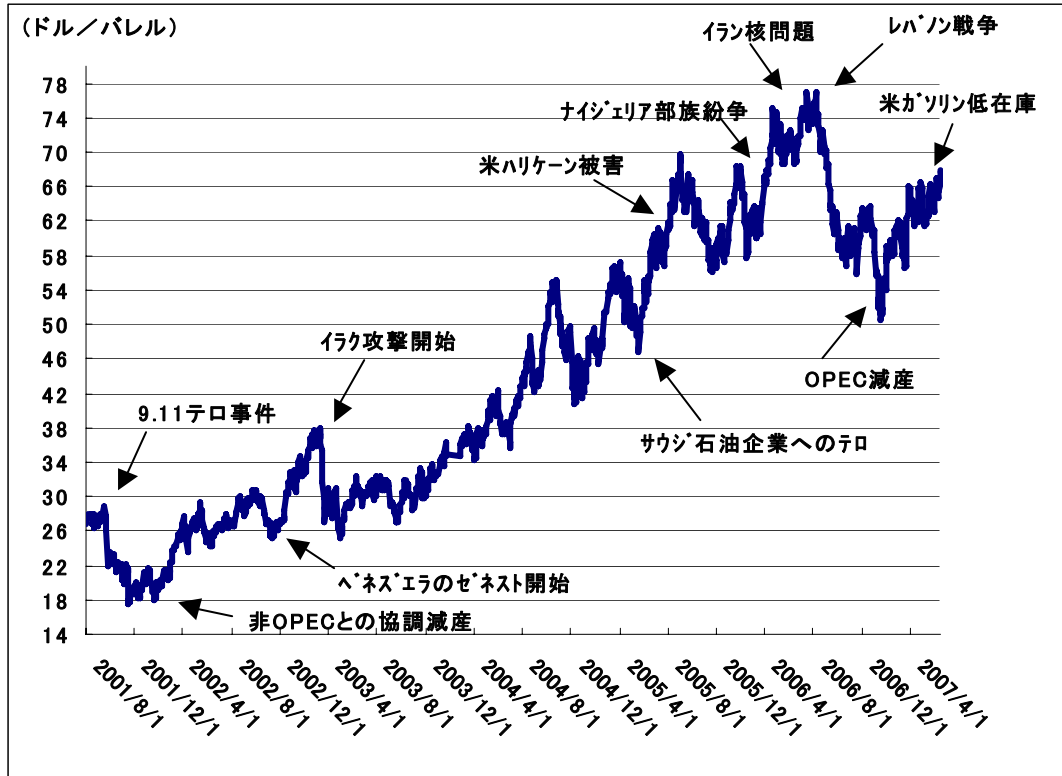
サハリン - 「北東アジアの北海」

サハリン2—ガスピロムが過半の株式を獲得
サハリン1、東シベリア油田の開発事業への影響

エネルギー分野での日露協力の可能性

日本への石油・ガス輸出、資金・技術導入による関係強化
日本の強み - 省エネ、原子力機器、タービン、LNGなど関連技術

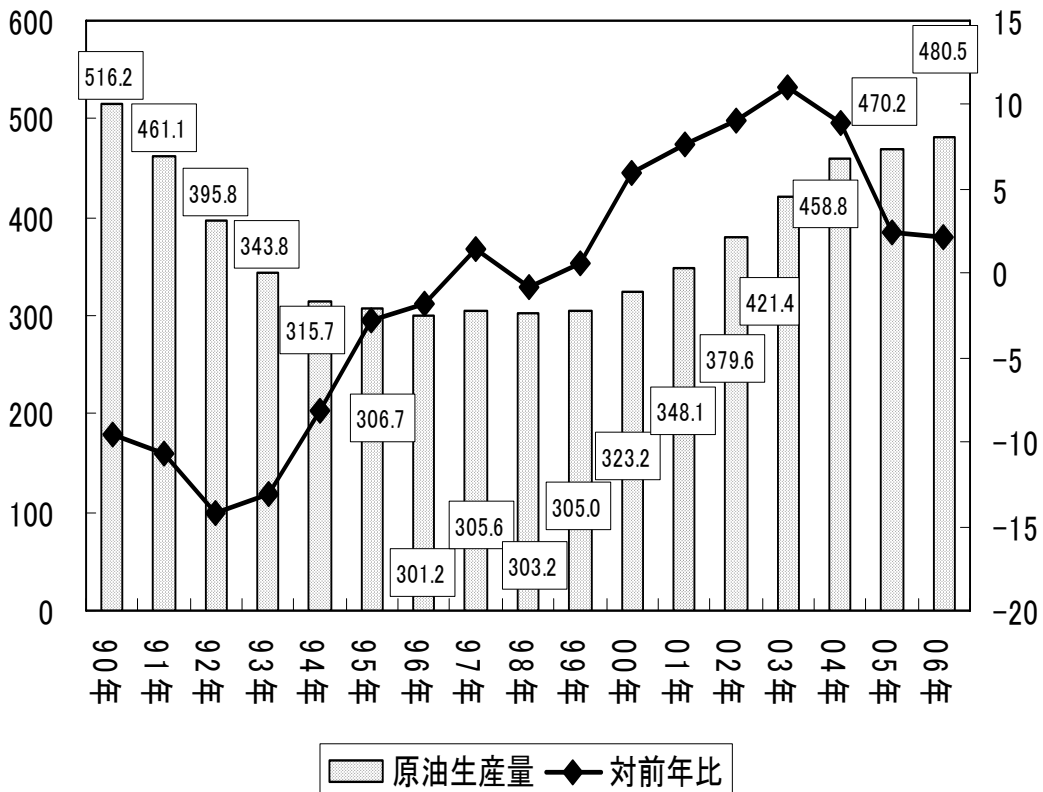
図1 9・11後のWTI原油先物価格の推移



(原油生産量: 100万トン/年)

ロシアの原油生産量の推移

(対前年比: %)



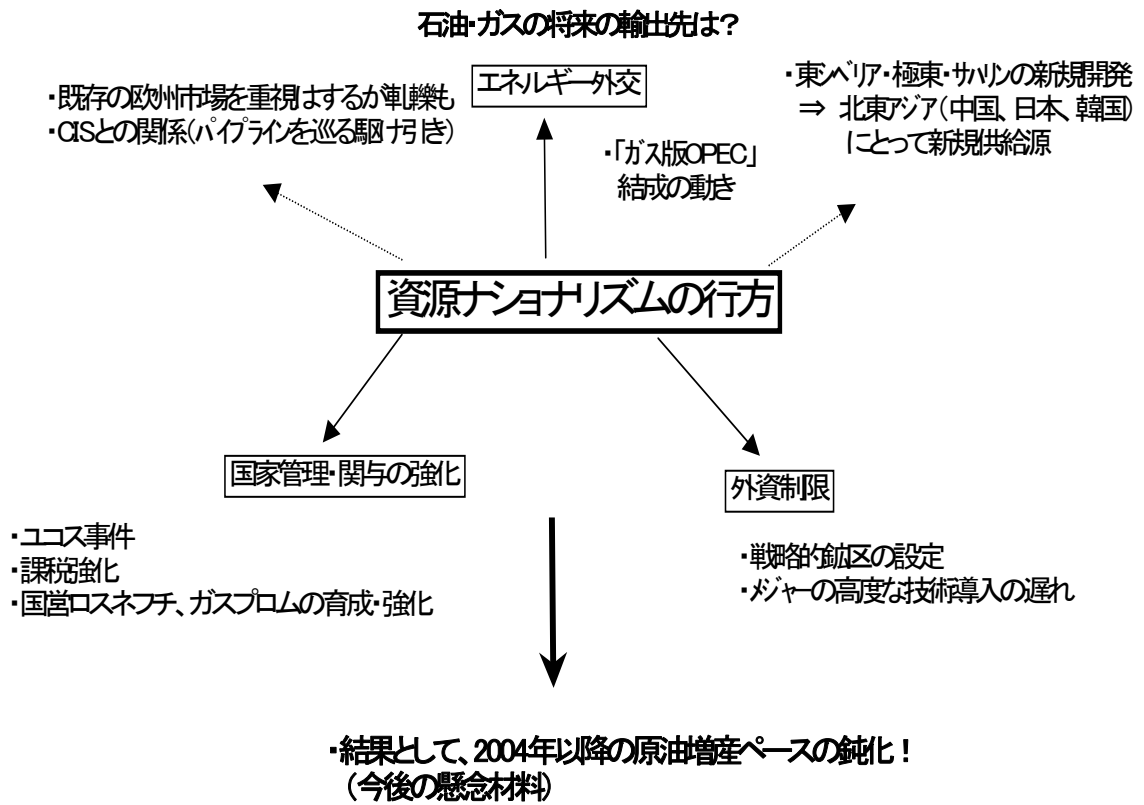


図4 日本の長期エネルギー需給の見通し (IEEJ: 基準ケース)

